

## それはどこから来たの？

目的：自分のみぢかなところからより広い世界との  
かわりについて、子どもたちの意識を高める。

教材：大型の世界地図、画鋏、毛糸

進行方法：

1. 子どもたちは自分の家の台所や冷蔵庫にある食べ物を調べ、食品名とその原産国がわかるようリストを作る。包装品のラベルかその一部に原産国名が印刷されているので気をつけて原産国名を見つけるように伝える。
2. クラス全員で自分たちが食べている品物を生産している国ぐにを地図で確認する。この目的のためには自分の住んでいる地点に画鋏をさし、食品名を書いた小さな画鋏の「旗」を生産国にさす。そして、両方を毛糸で結びつける。
3. クラス全員が終了したら、以下の設問について話し合う。

あなたの食べ物はほとんどが日本で生産された物か、それとも外国からの輸入品だったでしょうか。

あなたが食べていた物がどこから来ているのかわ

っていましたか。あるいは初めて今知りましたか。

どの地域でどのような食べ物が生産されていますか。またそれはなぜでしょう。

生産者から私たちの手に渡るまでにどのような人びとの手をとってくるのでしょうか。

フォローアップ

- 1: 子どもたちが地元のスーパーマーケットか食品店を訪ね、どうしてその国から食品を輸入しているのか調べることもできる。
- 2: 同じように、自分たちの着ているものや使っているものはどこで作られたか調べてみよう。さらに映画、音楽、ニュースなどの情報の発信国も調べてみよう。
- 3: 1日の新聞の記事を調べて、どこの国のどんな記事がどんな割合いでとりあげられているか調べてみることもできる。

グローバルコンセプト：

いくつかの製品の原産国を調べ、その国ぐにの状況を学び、公平な分配など社会正義の話し合いにつなげることもできる。

